

京極大助研究員

「環境破壊」と聞いて、どんな原因を想像するでしょうか。ぜひ本文を読み進める前に、30秒くらい考えてみてください。

有害物質による環境汚染は、規制が進んだこともあり以前に比べると随分と少なくなりました。熱帯林を中心とした森林伐採は今も深刻な問題ですが、世界的には森林を保護する取り組みが進んでいます。現在、最も注目されている環境問題は温室効果ガスの排出でしょう。これについてもさまざまな取り組みがなされています。

一方で、あまり話題にされない問題もあります。ここでは二つの問題を紹介します。一つ目の問題はネコです。ネコがネズミを狩るのはよく知られたことですが、ネコはネズミ以外にも鳥やトカゲ、ヘビなども狩ります。アメリカにはおよそ7千万頭のネコがいると推定されています。これらのネコが年間に殺す鳥の数は24億羽（！）と推定されています。野良猫や放し飼いのネコは生態系への重大な脅威として、近年その影響が明らかにになってきました。ネコは室内で飼うようにしました。ネコが狩りをするのは自然なことなのでは。そう思った人のために、次の問題を紹介しましょう。

二つめの問題は人間の数です。ネコの家畜化はおおよそ1万年前、



トカゲを捕まえたネコ（画像はphotoACよりダウンロード）



は広大な農地が必要です。多いのは人間だけではありません。世界にはウシが15億頭、ブタが8億頭、ニワトリが230億羽います。これらの家畜の餌を生産する農地も当然必要です。農地が作られることで野生生物の生息地が失われています。

ヒトに最も近縁なチンパンジーは世界で20万頭（ちなみに三田市の人口が10万人）、野生のライオンは3万頭くらいと推定されています。ヒトもニワトリもネコも、野生状態ではあり得ないほどに個体数が多いのです。

経済活動のためには人口が必要です。また急激な人口減少は社会保障に大きな負担をかけます（今の日本がまさにそうです）。しかし、現在の世界人口はあまりに多すぎます。だからこそ環境への負荷を減らす工夫は大事なことです。ネコは室内で飼いましょう。

ひとはく
研究員
だより

意外な環境破壊

ネコが生態系の脅威に